

平成29年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立草加西高等学校)

目指す学校像	人に優しく、自分に厳しく、社会に貢献する人間を育てる学校 ～自らの力で進路実現できる力を養う～
--------	--

重点目標	1 個に応じた学力の向上と、主体的に学ぶ意欲を育成する。 2 自らの行動を律する力を身に付けるとともに、活力ある学校行事や部活動・生徒会活動を実現する。 3 生徒が望む進路を実現するために、個々の進路希望に応じたきめ細かな指導を行う。 4 地域との連携を強化し、信頼と期待に応える開かれた学校づくりを推進する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	4名
	生徒	7名
	事務局(教職員)	10名

年度		学 校 自 己 評 価		年度評価 (1月18日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況		
1	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業への取組は、改善されているが、自主自立の姿勢が弱く、生徒自らが主体的に学ぶ力の更なる向上が課題である。 進学や就職のための補習や資格試験実施の組織的な取組、日々の授業を充実させるための教師の指導力向上が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上のための組織的な取組 教師の指導力を向上させるための取組 	<ol style="list-style-type: none"> 学力向上のための取組を保護者アンケートの結果内容に基づき見直し、全教科において計画的に実施するとともに公表する。(通年) 夏期休業中や放課後を活用して、進学者や就職者対象の補習を計画的に実施する。(通年) 教科と学年が連携し、資格試験の補習を充実し、資格取得を推進する。 教師の授業力を向上させるため、教員研修参加の機会を増やし、校内研修を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 学力向上の取組をHPに公表するとともに、保護者アンケートの回収率を10%以上向上させ、改善に役立てる。(通年) 成績優良者数を昨年度より増加させる。 資格試験の合格者が増加し、英検・漢検2級合格者を増加させる。(昨年度比) 教員間で授業を公開し、相互に研究しあう期間を設ける。また、予備校実施の教育研修への参加者を推進させる。(昨年度5名以上)研修成果を校内研修会等で共有する。(2学期) 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科が学力向上のための取組を検討し、「西高の学び」を作成して実施した。 教師の指導力向上のために、研修会参加を奨励し、日々の授業指導に還元させた。 ①学習の指針である「西高の学び」を生徒の現状に合わせて見直した。教科との協力から、生徒の家庭学習時間は若干であるが増加傾向を示した。 ②成績優良者の数は昨年同様であったが、欠点数が昨年度より増加していった。 ③漢字検定合格率は昨年度と同程度を維持できた。特に、漢字検定2級に3人合格するなど、大きな成果があった。 ④校外研修会へ5名の教員が参加し、成果を授業に還元するなど、教員の授業力向上への意識を高めることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科・学年・分掌との連携を深め、学習機会の増加や進学補習を実施するなど、生徒の家庭学習を習慣化させ、より一層の基礎学力の定着と向上を目指す。 ○教員相互の授業公開や学習指導教員研修会を通じて、教員の指導力向上や研修意識を高める試みを更に推進する。 ○資格取得についてより積極的な呼びかけを行い、受検者数増加を図る。 ○教員対象の教育研究セミナーへ多くの教員が参加できるよう推進させる。
2	<ul style="list-style-type: none"> 日々のきめ細かな生徒指導を実施することにより生徒は前向きに学習に臨み、安定した学校生活を送れている。今後は、教員と生徒との信頼関係を強化し、一人一人が規律ある態度を実践し、将来へ向けた自主自立と必要な規範意識をより一層向上させることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの意志で行動を律する力の育成 生徒一人一人の悩みに対応し、きめ細かな指導の実施と連携体制の構築 交通ルールを遵守し、自ら安全に配慮し、事故を防ぐ意識の向上 	<ol style="list-style-type: none"> 担任・教科担当・部活動顧問が連携し、遅刻指導や身だしなみ指導等とおして、自らの意志で基本的生活習慣が身に付くように指導する。(毎日) -1 悩みや課題を抱えた生徒への対応として、スクールカウンセラーによる教育相談を実施する。(毎月) -2 校内教育相談体制を充実し、草加分校と連携した体制を実現する。(通年) 学期毎に保護者と連携しての交通安全指導期間を設けて実施し、交通ルールやマナーを守る規範意識を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> 欠席数や遅刻数が減少する。(昨年度比) -1 転退学者が昨年度より減少(4人以下)する。 -2 草加分校と協力した教育相談対応やケース会議等を実施し、情報共有の機会を設定する。(通年) 交通ルールを守り、登下校時の交通事故が昨年度より減少する。(昨年度比) 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活指導を通じて、生徒が自らの行動を律するための指導を行った。 ・スクールカウンセラーの面談件数が32件と、件数は減少している。今年度は生徒だけではなく、保護者も対象とし、家庭での支援方法や対応への助言を行った。 ・交通ルールの重要性を認識させ、自ら事故を防ぐ意識を向上させた。 ①欠席者数は前年度比約12%増加、遅刻者数は約15%減少した。 ②特別指導件数は0件を示したが、転退学者は前年度4名から8名と増加傾向となった。 ③交通安全指導により、生徒の交通法規遵守の意識は向上している。今年度交通事故は9件と昨年度10件とほぼ同様の件数であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員の共通理解のもと、生徒指導を実践していくことが重要である。遅刻・欠席は進路実現に密接につながるため、明確な目的と目標をしっかり持たせるような指導を期待する。 ○生徒には、思いやりのある行動を素直にとれる人間になってほしい。また、教員には、生徒がそのような大人になれるよう人格を磨く教育を実践してもらいたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が主体となり、自主的に行動することの大切さを学び、実践するために必要な努力を続ける意識の向上が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な取り組みによる活動内容の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒会活動の核となる生徒会本部の活動の充実を図る。 部活動加入率の向上と各種大会やコンクールで活躍できるように校内バックアップ体制を強化する。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒会の本部役員が主体となって活動を活性化し、各学校行事等の内容充実と企画・運営の向上を図る。 部活動加入率を90%以上に維持し、運動部・文化部ともに、多くの部活を県大会などの上位大会やコンクールなどに出場させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が、文化祭や予備会などの学校行事において、企画立案を行うなど、主体的に考え行動する意識の向上を図ることができた。 ①生徒会本部役員が中心となり、各行事の実行委員会と協力して、企画・立案などの準備段階から主体的に活動した。 ②1・2年生の部活動加入率は90%以上を維持した。また、弓道部が全国大会で7位に入賞、複数の部活動が県大会等の上位大会に出場するなど顕著な成績を残すとともに、部活動全体が活発になっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会本部役員は、主体的に活動できる生徒が増えたが、活動内容に変化が出ていない。生徒会本部役員生徒の自覚とリーダーシップの向上が課題である。 ○運動部だけではなく、文化部の活性化が必要である。生徒の活躍の場を設け、活性化に向けた検討が課題である。 ○部活動を充実させるためにも、専門家のいない部活には専門教員の配置が課題である。
4	<ul style="list-style-type: none"> 教科や各分掌との連携により、生徒の進路実現の達成率は98%を超えている。大学等への進学者も増加しつつあるが、進路実現に向けてチャレンジする意欲の向上が課題である。 今後は、生徒の多様な進路希望に対応するとともに、更なる学力の向上と、進学者には一般受験に挑戦する意欲を培わせるとともに、将来社会で活躍できる人材としての力を育成することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員による進路指導体制の確立 進路決定100%の実現する、個々に応じた指導の実践 生徒や保護者への積極的かつ的確な進路情報の提供 	<ol style="list-style-type: none"> 進路指導部を中心に各学年が連携を図り、学年ごとに計画的に進路指導を行う。 進路指導部・教科や学年が連携して、補習・個別面談や小論文指導等の指導の他、教員向けの進路指導研修(進学指導全般)を実施する。 保護者会や個別面談等とおして、進路に関する情報を的確に提供し、質の高い進路指導を継続実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 年間を通じ、進路指導主事による進路講話や進路指導研修等の計画を予定どおりに実施する。 3年生においては、進学・進学準備や就職等の進路決定100%を実現。1・2年生においては、学年での進路指導が活性化される。 大学等が実施する進路説明会へ教員を派遣し、常に新しい情報を把握、生徒面談等に還元する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員が生徒の進路実現を目指し、生徒一人一人に応じた丁寧な指導を行った。 ・進路実現100%を達成するため、全教職員で取り組んだ。 ・保護者対象の進路説明会を開催し、情報提供を行った。 ①入学直後と2月に、1年生対象の進路講話・進路研修を実施し早期の進路意識向上を図った。 ②例年より大学進学傾向が増加を示した。就職試験では、第1回目内定率は84.5%と昨年より向上した。最終的には100%を達成する見込みである。 ③多くの上級学校説明会に教員を派遣し、情報を得ることができた。得られた情報を学年会等で共有し、生徒の指導や面談に役立てることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生に対する講話は、早期に進路意識を高めるために重要であるため、継続する。 ○次年度入学生から変更となる大学入試制度を見据え、新たな対応を検討していくことが必要である。 ○大学の学校説明会への参加だけでなく、普段の授業を見学することで、実際の教育活動を把握することができた。充実した進路指導のために、積極的に学校見学や訪問を行うことが重要である。
5	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信・施設開放・ボランティア等で開かれた学校づくりを推進している。今後は、地域や小・中学校との交流を推進させ、更に連携を深めていくことが課題である。 学校行事や授業公開への保護者の参加数は年々増加している。PTA活動への保護者理解と参加者の拡大が課題である。 草加かがやき特別支援草加分校との交流は良好である。更に相互理解を推進させ、新たな交流方法を検討することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元住民や近隣学校との交流の推進 学校・PTA・後援会との連携・協力体制の整備と活動広報の推進 草加分校との連絡連携体制の構築と教育活動への相互協力体制の強化 	<ol style="list-style-type: none"> 地域住民や小・中学校等との連携を図り、地域の高校としての認知度を高める。 PTA・後援会理事会を中心として、保護者間の連絡や連携を強化し、活動の理解と各種行事等に参加しやすい環境を整える。 草加分校と連携し、日々の連絡を共有する体制を構築する。また、各種行事の共同開催や放課後の部活動を合同で行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 学校説明会への参加者を昨年度より増加させる。(1,000人以上) -1 地域ボランティア活動への参加者を増加させる。 -2 保護者の授業公開やPTA活動、各種行事等への参加数を増加させ、学校への関心を高める。 相互の交流が積極的になされ、生徒間に共生意識と他者への思いやる心を醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の催し物や小中学校への出前授業の実施など、地域との交流を推進した。 ・PTA活動を一部見直し、活動の活性化と学校との連携構築を行った。 ・草加分校との連携を密にし、協力体制強化を図った。 ①学校説明会への参加者総数は、542名と昨年度526名より若干増加した。 ②今年度新たに小学校との部活動交流を3校、計4回実施し、生徒の活躍の場を設け、地域の学校理解を深めることが出来た。 ③保護者の授業公開参加者は、昨年度とほぼ同数であった。また、公開講座への参加者は昨年同数の60名であった。 ④草加分校との交流は、体育祭や文化祭、ロードレース大会など、各行事を通じて積極的に行うことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の催し物や小学校へ生徒を派遣し、交流を行うことで、生徒の活躍の場が出来ている。今後は積極的な交流を行い、実施回数を増加させていく。 ○HPを活用し、学校の教育活動への取組を積極的に発信し、地域の理解や協力を推進する。 ○今年度、本校で実施された草加市内中高PTA連絡協議会で多くの役員の協力と連携を深めることが出来た。この経験を活かし、次年度も活動の活性化と学校運営への連携を図る。

学校関係者評価	実施日 平成30年2月16日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ○きめ細かい指導ができており、素晴らしい。今後も継続してもらいたい。 ○受験勉強や試験勉強では勉強時間が増えているようだが、家庭学習の習慣化が課題である。 ○目指す学校像については、時代や社会のニーズに応じて変えていく必要もあるのではないかと。
特別指導件数が0件というのは、日頃の指導の成果である。遅刻・欠席は進路実現に密接につながるため、明確な目的と目標をしっかり持たせるような指導を期待する。	○生徒には、思いやりのある行動を素直にとれる人間になってほしい。また、教員には、生徒がそのような大人になれるよう人格を磨く教育を実践してもらいたい。
○生徒会が主体的に学校行事を運営し、教員がそれを褒める学校の在り方が素晴らしい。生徒の活躍の場を今後も拡充してほしい。	○部活動が活発で、元気が良い。顧問が入れ替わっても継続性を工夫してもらいたい。
○保育・福祉教育を推進する教育課程は大きな特色である。進路状況が良くなり、就職者も現場で頑張っている。	○個別指導を実施したり、大学入試改革を見据え対策を練り上げているようだが、課業日も補習体制を確立し生徒の学力向上を図ってはどうか。
○地域の催し物や小学校へ生徒を派遣し、交流を行うことで、生徒の活躍の場が出来ている。今後は積極的な交流を行い、実施回数を増加させていく。	○PTA活動への親の取組は、子供達への影響も大きい。より多くの保護者にとのようにして学校教育活動に関わっていただくかは今後の課題である。